

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

【共に学び たくましく生きる 心豊かなナントツの子】  
 (知)自ら学び続け、自分の考えを深める子どもを育てます。  
 (徳)自分も友達も大好きな、あたたかい子どもを育てます。  
 (体)心と体を鍛え、自分や人の命と体を大切にすることを育てます。  
 (公)地域の人やものを大切に、共に生きる子どもを育てます。  
 (関)様々な社会の変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈心身ともにたくましく生きる力〉  
 〈コミュニケーション能力〉  
 〈協働して課題解決する力〉

#### 具体化した資質・能力

健康・安全・食への関心を高め実践する力  
 思いや考えを言葉などで表現したり、受けとめたりする力  
 主体的に人・もの・ことに関わろうとする態度

#### 中期取組目標

◎子ども一人一人を大切にしながら、子どもたちが豊かに学び、活躍できる学校づくりに努めます。  
 ○集団の中で自己肯定感・自己有用感を高め、一人一人が安心して自分らしさを発揮できるようにします。  
 ・ペア活動、特別活動等での異学年交流  
 ・地域とのかかわりを意識し、一人一人が活躍できる授業や体験的な活動  
 ○教職員のチーム力向上に努め、児童が主体的・協働的な学びを通して資質・能力を身に付ける授業を実践します。  
 ・学年研、重点研(算数科)、メンター研、小中ブロックでの合同研修や授業研究を中心に  
 ○安全に安心して学べる環境づくりのため、危機管理意識と人権意識を高めていきます。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①興味・関心をもてるよう工夫し、目指す姿や身に付けたい資質・能力を子どもたちと共有することで、主体的に学ぶ姿勢や力を育成します。②重点研テーマを「主体的に学び、互いに認め合う子の育成」とし、算数科を中心に授業研究に取り組み、算数の活動を通して思考力・表現力を高めるとともに、主体的に課題に向き合い、他者と協働しながら課題を解決しようとする姿を目指します。③ICTの活用を積極的に取り入れた授業を通して、情報活用能力とITリテラシーを育成します。
担当	評価・情報教育部会

#### 学力向上に関わる本校の状況

◎令和7年度の本校の児童の学力状況を、令和6年4月実施の調査結果から見ると、現6年(6年度5年):4教科ともに横浜市の平均を上回っている。おおむねどの教科も学習に対する意識は高いが、体育では、横浜市の平均を大きく下回っている。  
 現5年(6年度4年):4教科ともに横浜市の平均を上回っている。どの教科においても、学習に対する意識が高い。  
 現4年(6年度3年):国語科・算数科ともに横浜市の平均をほぼ同じである。算数科では、学習に対する意識が横浜市の平均を大きく下回っている。  
 現3年(6年度2年):国語科・算数科ともに横浜市の平均を下回っているものの学習に対する意識はほとんどの教科で高いことがわかる。  
 学校全体としては、学習することのよさや必要性を感じながら取り組んでいる児童が多い。一方で、生活意識調査からは、主体的に学習に取り組む態度に関する項目でやや横浜市の平均を下回る傾向が見られる。自己調整する力や粘り強く取り組む態度を育むために、学習のめあてや学習計画を児童と共有し、見直しをもって課題に取り組めるようカリキュラムマネジメントを行っていく必要がある。また、各学年で児童の姿を踏まえ、育てたい資質・能力を明らかにし、そのための手立てや支援の在り方について学年やブロックで共通理解を図っていく。今年度からは、重点研究として算数科の学習を通して研究を行っていく。どの学年においても、「算数科の学習では、答えを確かめたり、求め方を振り返ってよりよい方法がないか考えたりしていますか。」という設問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童が多く見られる。算数科において主体的に学びに向かう姿を明らかにしながら、さらなる学力の向上を目指して研究に取り組んでいきたい。

#### 今年度の目標

主体的な学びを大切に、互いに認め合える子を育成する。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の個性を大事にし、学習の基礎・基本を身に付け、自ら進んで関わっていきけるような活動を多く取り入れる。</li> <li>○授業時のつぶやきや気付きを見取り、それを価値づけることで、自分の思いや考えに自信をもてるようにする。</li> <li>○相手の思いを受け止めるために、協働的に活動できる場面を取り入れる。様々な活動に見通しをもてるよう学習計画を立てていく。</li> <li>○自分が経験したことや考えたことを発表したり文章に表したりする表現活動を大切に、話し合う場面を取り入れ、考えを交流し合えるようにする。</li> <li>○地域の活動に関わる場を設定することによって、興味や疑問をもち、友達と協働しながら追究していくことができるようにする。</li> <li>○基礎・基本的な知識を身につけるとともに、それらを体験・活用して、自分の思いや考えたことを自分の言葉でまめ相手に分かりやすく伝える学習を取り入れていく。</li> <li>○自分の思いや考えを言葉などで表現するとともに、伝え合う喜びを実感できる学習教材や授業展開を工夫する。</li> <li>○自分と他者の共通点や相違点を意識できる活動を行い、自信をもって上手に自分の考えを他者に伝えることができるようにする。</li> <li>○自分で判断し、進んで行動し、互いに助け合いながら、学び合うことができるようにする。</li> <li>○どの教科等の学習でも、計画的に振り返りの時間を設け、これまでの自分の成長や課題を自らの目で捉えらるるようにする。</li> <li>○他者の考えを理解し、異なる視点を交えながら話し合い、互いの意見を関連付けたり、多面的に考えたりする学習機会を意図的・計画的に行う。</li> <li>○自分と他者との関係を捉えて、目的に応じて適切に表現したり伝えたりすることができるようにする。</li> <li>○学習支援計画や指導計画に基づき、個に応じたコミュニケーションスキルの獲得と向上を目指す。</li> <li>○発達段階に応じて、個々が表現したことと共通できるグループワークを行う。</li> <li>○実体験や操作的な活動を取り入れ、興味・関心を高められるようにする。</li> <li>○ICTを活用するなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科において、操作活動や体験的な活動を多く取り入れる。</li> <li>○教師の意図的な発問や、本物の問いが分かる発問を重視して行う。</li> <li>○詳しく知りたいこと、分からないことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言語で表現したりしながら対話的な学習を行う。</li> <li>○表現活動を多く取り入れ、ペアでの話し合いからグループでの話し合いへの流れを意識的に行う。</li> <li>○報告する文章や説明する文章を身に付け、話し合いを子どもたち自身で行えるようにする。</li> <li>○ペア/グループ・全体で共有する場を設け、友達との考えのよさに気付き、自分の考えに取り入れられるようにする。</li> <li>○学習したことを日常生活と結び付けて考える学習機会を設け、学習したことと日常生活とを比較しながら経験を読み重ねる。</li> <li>○自分の考えを言葉や図、絵で表したり、ペアやグループで伝え合ったりする学習機会を設け、自分の考えを確認したり、友達の考えを知ったり、より良い考えに気づくようにする。</li> <li>○学習課題を自分ごととして捉え、主体的に学習ができるようにする。</li> <li>○相手の話を一般化したり、自分の経験を加味したり広げたりしながら話し合えるようにする。</li> <li>○学習のめあてを理解し、自分のめあてを立てるために、本時や單元終わりの学習の振り返りを行えるようにする。</li> <li>○ノートに表現したり、ペアやグループで自分の考えを伝えたりする時間を設ける。</li> <li>○対話的な活動を設定し、自分や材、学習資料、友達といった様々な対象と対話していくという意識を高める。</li> <li>○学習以外の様々な場面でも、自分の言葉で相手に伝えられる場面を設ける。</li> <li>○交流学年の取組を参考にし、子どもや保護者のニーズに応じて、必要な取組を行えるようにする。</li> <li>○自分の思いや考えを、相手に伝えられる活動を数多く取り入れる。</li> <li>○発達段階に応じた分かりやすい情報を発信するなど言語理解を豊かにする。</li> <li>○ICT活用について振り返り、児童の発達段階や教育的ニーズに合わせたタブレット学習になるように教育環境を整える。</li> </ul>

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①全教育活動を通して道徳教育の充実を図ります。②特別活動やペア活動等の充実を図り、様々な集団活動を通して、思いやりの心や協力する心、自己有用感を育てます。③家庭や地域との連携を図り、様々な人と関わることで気持ちをつなげるよさを実感できるようにします。
担当	児童指導・特別支援部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

本校は、自然豊かな戸塚公園に隣接しており、校庭にも様々な植物があつたり小さな生き物が生息する池があつたりする。そのため自然を身近に感じている子どもが多い。栽培活動や飼育活動を通して、命を大切にすることを育てている。このような環境の中で学校に対して協力と支援を惜しまないたくさん保護者と地域に見守られて、子どもたちは、明るく素直な子どもが多い。規範意識も、おおむね身に付いている。  
 年に1度音楽会を開催し、保護者に発表したり、他学年の演奏を聴く時間を設けたりしている。また、「心の握手」の時間として、各学年の代表児童が朝会で人権・福祉・環境に関する内容の作文を発表している。これらのことを通し、自分の考えや思いを表現し、自他の存在を認め合うことができるようになり、友達のよさや多様な考えに気づいたりできるようにしている。  
 しかし、子どもたちは現状に満足してしまつて、新たな課題に取り組もうという意識があまり見られず、自信のない児童が多い。挨拶など、自分から進んでコミュニケーションには、より積極性が期待される。

#### 今年度の目標

互いを思いやり、認め合い、共に生きる、心豊かな子を育成する。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペア活動を通して、異学年との関わりを楽しむ。</li> <li>○「児童会活動」「委員会活動」「クラブ活動」など異学年児童と交流する活動において、より自主的、意図的にコミュニケーションを図れるようにする。</li> <li>○特別の教科道徳を要とした道徳教育の充実を重点課題と位置付け、指導の充実を図る。</li> <li>○学校生活についてのアンケートによる学級・個人アセスメントをとり、学級や個人の実態を多面的に捉え、活用することにより授業や生活指導の充実を図る。(VPアセスメントについての研修会を開く)</li> <li>○各クラスで人権目標を設定し、人権教育を実践する。</li> <li>○中学校ブロック3校合同人権研修を実施する。</li> <li>○児童運営委員会を中心に、あいさつ運動を行う。あいさつ運動をきっかけに、思いやりや認め合いについて考え、人とのつながりを感じることができるようになる。</li> <li>○特別支援教育についての研修会を開き、特別支援教育についての理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会や音楽会等の行事の中で役割意識を育み、達成感・自己有用感を味わったり、互いを認め合ったりできるようにする。</li> <li>○特別の教科道徳を要とした道徳教育の充実を重点課題と位置付け、指導の充実を図る。</li> <li>○学校生活についてのアンケートによる学級・個人アセスメント(2回目)をとり、1回目からの変更とらえ日々の生活指導や次年度の指導に生かす。</li> <li>○クラスの人権目標を振り返り(人権週間、年度末)、自分や友達の見方について考える。</li> </ul>

#### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①規則正しい生活をしようとする態度を育てるとともに、子どもたちの主体的な活動を通して基本的な生活習慣を整えていきます。②体育科を中心とした健康に関する学習の充実を図るとともに、限られた環境の中でも運動量を確保しながら、運動への親しみをもち体力向上を目指せるようにします。③計画的に食育に取り組み、食への興味・関心を高めつつ食事の重要性についての理解を深め、望ましい食生活を創造しようとする態度を育てます。
担当	防災・安全・環境・キャリア部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態  
 ○どの学年も市平均と比べて、睡眠時間が多く、よく寝ている。  
 ○朝食はどの学年もしっかり食べている。  
 ○テレビ等の視聴時間はどの学年も、市平均より下回っている。  
 ○休み時間以外で遊ぶ児童が減っている。  
 ○休み時間以外で遊ぶ児童が減っている。  
 (2) 体力の概要と要因の分析(全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)

令和5年度と令和6年度の新たな体力テストの結果を比べると、市平均を超える学年が多かった。これは、運動する習慣がしっかり身に付いているからだと考えられる。しかし、スポーツクラブに所属していない児童においては、平均を下回っている。このことから、日頃からすべての児童が運動に親しめる機会を設ける必要があると考えられる。そのためにまず、体育学習で運動量を確保したり、運動に親しんだりできるように授業改善する。さらに、委員会や学校保健委員会などの組織を通して工夫したい。

#### 今年度の目標

基本的な生活習慣を整え、自分の健康について関心をもち主体的に運動に取り組もうとする態度を育てる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;体育科の取組&gt; 健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む ・子どもが運動の特性に触れた楽しさを実感し、仲間との対話による課題解決や学習資料の活用による体育科の授業展開の工夫 ・養護教諭や栄養職員による、子どもたちの生活や他教科等の学習との関連を図った取組の工夫</li> <li>&lt;特別活動・総合的な学習の時間&gt; 規則正しい生活をしようとする態度、進んで運動しようとする態度を育む ・学校医、養護教諭、栄養職員による歯磨き指導や給食指導による自分の生活の状況を見つめ、学んだことを実践できる力を育む特別活動の授業づくり</li> <li>&lt;課外活動&gt; 自己を見つめ直し、健康の保持増進に努めようとする態度を育てる。 ・長期休暇では、「健康カレンダー」を作り、自分の健康に関心をもって過ごしていけるようにする。 ・体力テストの結果等を共有し、家庭と連携を図るために、個人面談等を利用して保護者と話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;体育科の取組&gt; 健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む ・子どもが運動の特性に触れた楽しさを実感し、仲間との対話による課題解決や学習資料の活用による体育科の授業展開の工夫 ・養護教諭や栄養職員による、子どもたちの生活や他教科等の学習との関連を図った取組の工夫</li> <li>&lt;他教科での取組&gt; 心身の健康な生活を実践する態度を育む ・「正直、誠実」の重視による、「誠実に明るく心で生活しようとする」態度の育成を目指した道徳の授業づくり</li> </ul>